

## 外国人求職者のための緊急日本語講座

講座日時：	3月コース	3月6日(金)～3月27日(金)
	午前の部 10:00～11:30	
	午後の部 13:00～14:30	
内容：	面接・仕事に必要な簡単な日本語	

	3月コース	内容
1	3/6(金)	ガイダンス
2	3/10(火)	個人に関する事柄
3	3/12(木)	家族に関する事柄 1
4	3/13(金) *	職歴・学歴に関する事柄 1
5	3/17(火)	能力・資格に関する事柄 1
6	3/19(木)	仕事に関する事柄 1
7	3/20(金) *	家族に関する事柄 2
8	3/24(火)	職歴・学歴に関する事柄 2
9	3/26(木)	能力・資格に関する事柄 2
10	3/27(金) *	仕事に関する事柄 2
	3/28(土) *	とよた日本語能力判定

- 一週間に一回、勉強したことについて、テスターと模擬面接を受けることができます。カレンダーで\*が付いている日が面接日です。
- 時間は11時半から13時までの間の15分、予約制です。

## 「外国人求職者のための緊急日本語講座」ボランティアの皆様へ

### 1. 外国人求職者のための緊急日本語講座の開設の目的

昨年末からの日本経済の悪化に伴い、豊田市においても職を失う外国籍市民が増加しつつある。そのような人々から、求職活動をしつつ、日本語学習を希望する声が上がっていった。この講座の目的は、これらの外国籍市民(以下、受講者と呼ぶ)が日本語を身につけ、次の職業に就く際に少しでも助けとなることを目的としている。同時に、この講座を開設しボランティアの皆さんと受講者が日本語を使って交流することで、日本人にとっても外国人にとっても住みやすい社会、多文化共生社会を実現することも大きな目的の一つである。

### 2. 講座の背景と目標

#### 背景

- 1) 入門クラス(ほとんど日本語ができないレベルを対象)と初級クラス(正確さや適切さはないがある程度の意思疎通ができるレベル)を対象としている。
- 2) 学習者は長年日本にいながら、教室の場所や時間帯が原因で日本語を勉強する機会がなかった人が多い。
- 3) 1回1時間半、全10回(計15時間)の講座。ただし求職中であるため毎回受講者は毎回出席できるわけではない。
- 4) 学習はある程度落ち着いて取り組める環境でなければ効果は少ない。しかし求職中の状態は落ち着いて学習に取り組める環境とは言えない。
- 5) 「日本語の能力」が失職の原因でもないし、就職の要因とも言えない。

#### 目標

日本人と同等の対応や適切な対応ができるところまでは求めていない。日本語がほとんどできない受講者が面接で聞かれそうなことについて、片言でも応答できるようになればいい。主眼は今までなかなか日本語を学ぶ機会がなかった受講者が日本語の基礎を身につけ、今後日本で生活していくために日本語の学習を続けていこうという「動機」を高めること。

### 3. 本講座における「学習」に対する考え方とボランティアの皆さんに期待する役割

#### 「学習」に対する考え方

- 1) 緊張が強られる面接においては「覚えた」表現では対応できない。瞬時に判断して対応する力が求められる。そのような力は面接での受け答えを想定した問答集を示して、それを覚えることでは身に付かない。
- 2) 面接で求められる受け答えの内容は個人によって異なる。教科書で示すことはできない。
- 3) 個人によって異なる内容を引き出すために、そして本当に役立つ力を身につけるために必要なのは「交流」。「交流」とは自分のことを知ってもらいたい、そして相手のことを知りたいと感じて情報や感情をやりとりすること。

- 4) 最初に「言うべき内容や形」を示して「交流」するのはなく、まず単語だけでもいいからボランティアと自分の情報を交換し合う。その交流を数多く繰り返すことで、試行錯誤しながら少しずつレベルを向上させていくことができる。

### ボランティアの皆さんに期待する役割

- 1) 「交流」を生み出すためには、お互いに、伝えよう、理解しようという気持ちを持って報を交換し合うことが必要。そして、ボランティアの皆さんからの「そう、わかった」という反応から得られる「達成感」が重要。
- 2) 交流するためには、お互いが自分自身のことを表明する必要がある。できれば、皆さんにも自分の情報を示していただきたい。伝えられないときに「ことば」を解釈したり説明するのではなく「伝えるために言い換えたり身振りを使ったりして工夫する」ことが重要。また、理解するために必要なのは「耐える」こと、「待つ」こと。そして笑顔。どうしてもだめな場合は通訳や講師に助けを求めてください。
- 3) 実際の面接で面接担当者がどのような表現で質問してくるかは予想できない。質問は自分なりの形でもかまわない。

### その他

- 1) 教室で感じた疑問点、希望などを共有し解決策を考えるために、毎日教室終了後に15分程度、振り返りの時間を取る(任意参加)。
- 2) 振り返りの時間以外でも意見交換、情報提供を行うためのメーリングリストを立ち上げる(任意参加)。参加可能な方は後ほどアドレスを伺います。
- 3) 毎回、参加くださるボランティアの方の顔ぶれは異なる。入門、初級のどちらの教室に入っていくかはその日の人数によって、講師が振り分ける。

### 4. 講師(プログラムコーディネーター)の役割

- 1) 毎回教室の担当者としてみなさんの教室活動の進行役。
- 2) 教室活動中に疑問や質問があればそれに対して提案をしたり、どうすればいいかいっしょに考える役割。
- 3) 教室活動ではパートナーと学習者のやりとりがお互いの学びにつながるようにサポートする役割。

### 5. 通訳の役割

- 1) 受講者からの意見を聞いたり講座主催者側からの意見、提案を伝える。
- 2) 講師の教室活動の進行を補助する
- 3) 教室ではどうしても伝えられないことばや理解できないことばの手助け

## 6. 教室活動の流れ

<教室活動の流れ> (計 90 分) やりとりと読み書きの時間配分はレベルによって異なる  
(やりとり)

- ① 学習者とボランティアでグループを作る。
- ② 自己紹介の会話をする (「打ち解けの時間」)。
- ③ シートに基づいて会話をする。
  - ・ シート全部を話すことを求めるものではありません。最初はシートを指さしながらでも結構です。ただし、シートを指さしながら「これは？」ではなく、質問してみてください。可能であれば、まず、皆さんのことをお話ください。学習では「聞いて理解する」ことも非常に大切です。まず、一人目の対話で、3つ言える、次の人と4つ言えるようになる、同じテーマは2度繰り返します。6人とは同じテーマについて話せます。その過程で言えることが増えていけば結構です。言えないことでプレッシャーを感じると、それは学習を邪魔することになります。
  - ・ 話しながらシートへ記入 (メモを取る) →初級は可能であればひらがな・カタカナで
- ④ 受講者は自分が話した項目を振り返って✓を記入する。(教材参照)
- ⑤ グループ替えをして、同様のやりとり(②~④)を行う。
- ⑥ 3回目のグループでQAを行う。
  - ボランティアと受講者がペアになって、振り返り欄に✓が入っている項目について面接形式でQAをする。
- ⑦ 受講者はQAの結果をチェック欄に記入する。

(読み書き) → 基本的には個別対応。

- ① 今日話した項目について、受講者はできるだけ履歴書に記入してみる。
  - ② ボランティアは受講者の書いた文字に合わせて添削する。
    - ※ 受講者がひらがなを使って書いた場合、ひらがなの間違いや抜けをチェックする。カタカナの場合はカタカナについて同様に。
- 目標としては、ボランティアに書いてもらった履歴書のコピーができるようになること。